



大地申12号 2017年度「ライフサイクルの深度化」の運用に関する緊急申し入れその1

申12号「2017年度『ライフサイクルの深度化』の運用に関する緊急申し入れ」の団体交渉を1月18日に行いました。今、宇都宮運転所と小金井運転区の運転士職の仲間が「今回ライフサイクルでの異動を希望していないにも関わらず地区外の駅への異動の意識付け」「本人希望を無視した支社外（東京駅）への異動の意識付け」が行われています。今交渉は、この間の議論経過や施策を担ってきた職場の苦闘を蔑ろにすることなく、今後施策を担う組合員の不満と不安を払拭するため働きがいの持てる運用を求めました！しかし交渉以降、結果として本人希望と異なる異動が行われました！覚書を遵守させ制度としての定着の実現に向け、職場のたたかいを強化しましょう。

1. 本人の希望と異なる要員需給を理由とした対象者への意識づけに対する見解及び、運用面の課題を具体的に示すこと。

会社回答：「ライフサイクルの深度化」については、覚書等を踏まえ進めてきているところであり、引き続き更なる定着に取り組んでいく考えである。

本部一本社で締結した覚書【駅への異動】

- （組合）駅への異動時期及び箇所については、生活設計等に配慮して本人希望とするほか、経験や要員需給を加味して不公平感が出ないようにすること。
- （会社）異動時期及び箇所については、社員の転勤希望等を前広に把握するとともに、生活設計に必要な配慮を行う。その上で、各駅・区所における特徴や要員事情等も総合的に勘案したうえで配置する。

覚書にある通り、異動時期・異動箇所について社員の転勤希望を把握しているはずですが、運転士職の対象者のほとんどが希望箇所ではない大宮駅に集中して意識付けがされています。支社は「大宮駅に集中させる根拠」を明確にしなければなりません。支社が回答した根拠と私たちの主張を見比べると、矛盾が明らかになっています！

私たちの主張	会社回答
<ul style="list-style-type: none"> 一つの作業ダイヤを多くの人が担うことが問題となる施策ではない。 宇都宮駅(2徹)・・・必要要員7名 専属4名(うちライフサイクル者2名) 残り3名分は混み運用で対応 小金井駅(1徹)・・・必要要員4名 専属2名 残り2名分を営業職・主務職などでまかなっている。ライフサイクル対象者が十分配属できる作業ダイヤの運用実態だ！！ 大宮駅では活躍できるが、宇都宮駅や小金井駅では活躍できないのか！？ 個人の異動ではなく、施策の異動であり施策の目的達成のための異動なのか根拠がない！ 要員の穴埋めに見える。大宮駅の輸送職の要員が足りていない。下位職充当まで行わなければならない状況になっている！！ 	<ul style="list-style-type: none"> 作業ダイヤが少ない駅に多くの人が異動すると仕事がない。 指導職の運転士が配属できる対象駅の作業ダイヤは・・・ 宇都宮駅2徹、小金井駅1徹、大宮駅3徹 1日勤、南浦和駅2徹である。 大宮駅は本人が活躍できると判断したから。覚書の3つの目的を最終目的として活躍できる。 最終的には総合的に勘案して判断した。 個別具体的なことは言えない。個人のことになるので。「この人はこういうところがあるのでこの駅だ」という個人ごとに社員の状況見ている。 <p style="text-align: center;">大宮駅に集中させる根拠は明確にならず！！！！</p>

「一つの作業ダイヤを多くの人が担うことが問題となる施策ではない」「宇都宮駅・小金井駅だから活躍できないとは考えていない。」としながらも、支社は「大宮駅が一番活躍できると判断した。」と回答！